



(2003年5月)

【本学会活動状況】

1. 大会開催報告

平成15年度大会は、平成15年3月28日から30日までの3日間にわたり明治大学駿河台校舎のリバティタワーで開催された。大学の行事の関係上、例年と異なり3月末の年度末で忙しい時期の開催となり参加者数を心配したが、幸い天候にも恵まれ一般と学生合わせて参加者1,069名、講演数428題と予想を超える多数の方々の参加を頂き盛大に行うことができた。また、懇親会を私学会館アルカディア市ヶ谷で開催し、508名の会員・賛助会員の参加を得た。会は下山永年会員の乾杯に始まり、約2時間にわたる和やかな懇談の後、盛会裡に宴を終了することができた。

本年度は講演要旨予稿集代を含めて大会参加費を振込いただいた。大会案内および振込用紙の両方に記載したことで周知できたものと思っていたが、多数の方が講演要旨代を加算して振り込まれ、大会期間中に返金する事態となった。まさに既成事実を変えることの難しさを実感させられた。一方、講演申込では昨年と同様に講演要旨を電子メール添付で送付いただいたことから、プログラム作り、講演要旨予稿集の作成などが比較的容易にパソコンで処理することができ、時間的・労力的に大変助かった。今後もこの方法が定着するものと思われる。また、発表講演は会場の関係上初めての試みでパソコンを用いたCD-Rにより行っていた。ソフトの関係でファイルが開けない一部の発表者には、プリントアウト紙を用いて発表していただいたが、心配していたほどの大きな混乱もなく、全ての発表を無事終えることができた。発表者の皆様にはCD-Rの事前動作確認などでご協力を賜りましたことを感謝いたします。

終わりに、大会運営委員および座長の皆様をはじめ、南関東地区における各大学の学生アシスタント、学会幹事並びに学会事務局の方々のご協力・ご尽力により、本大会を成功裡に終えることができましたことを心より御礼申し上げます。
(米山勝美)

2. 研究会開催報告

(1) 第6回植物病害生態研究会

第6回植物病害生態研究会は、平成15年3月31日(月)に明治大学駿河台キャンパスにおいて、「植物ウイルス病害の生態、現場からのアプローチ」とのテーマで開催された。参加者は116名で、内訳は大学14名、都道府県54名、独法31名、民間15名、その他2名であり、焦眉の急となっている難防除病害の話題が含まれていることから、県の試験研究機関からの参加が多かったが、大学関係、特に院生の参加がほとんど無く、今後課題を残した。

講演は、長崎県総農試の松尾和敏氏が「暖地ハウスメロンにおけるえそ斑点病の発生生態と防除」、富山県農技センター野花試の守川俊幸氏が「チューリップの土壌伝染性ウイルス病、難防除を克服するには」、兵庫農技総合センターの相野公孝氏が「レタスビッグベイン病の発生と総合防除の試み」、近中四農研の石川浩一氏が「稲縞葉枯ウイルスの系統とその野外分布」、中央農研の本多健一郎氏が「疫学的アプローチと栽培技術・品種を活用した虫媒性ウイルス病の総合防除、大豆わい化病を例として」と題して講演を行い、座長を中島隆氏(九州・沖縄農研)と竹内徹氏(道立中央農試)が務めた。それぞれのテーマに関して、活発な総合討議がもたれた。また、当日は研究会の総会がもたれ、規約等を制定した。次回は大会翌日(3月31日)に福岡市内において開催する予定である(テーマ未定)。
(石黒 潔)

(2) 第13回殺菌剤耐性菌研究会

平成15年3月31日、東京お茶の水の明治大学リバティホールで、約200名の参加を得て開催された。「トマト褐色輪紋病菌及びキュウリ褐斑病菌の薬剤感受性について」岡山農試北部支場の伊達寛敬氏が、「ダイズ紫斑病の防除対策とベンゾイミダゾール系薬剤耐性」を鳥取農試の長谷川優氏が、また「灰色かび病菌のジカルボキシイミド系薬剤耐性の分子機構」について東洋大の藤村眞氏がそれぞれ話

題提供した。

次いで、最近大きな問題となってきた、イネいもち病菌のシタロン脱水酵素阻害型メラニン生合成阻害剤(MBI-D)耐性を取り上げた。最初に「佐賀県における耐性菌の発生経過」を佐賀農業センターの山口純一郎氏が、「薬剤感受性検定と防除対策」を全農営技センターの宗和弘氏が、「耐性機構と遺伝子診断法」、「耐性菌の性質および拡大防止対策」について、高垣真喜一氏(クミアイ化学)と梶原穂氏(バイエルクロップサイエンス)がそれぞれ話題提供した。各講演の後には活発な質疑応答がなされたが、特にいもち病に関しては育苗箱施薬のみに頼るのではなく、種子更新や種子消毒の徹底など、基本に立ち返って防除することの重要性が改めて指摘された。また、速やかな耐性菌発達を促した要因の解析などを求める意見も出された。

なお当研究会では現在、各地域における耐性菌情報などを迅速に収集し、活動をより効果的なものとするために、運営委員を募集している。講演要旨集の購入(1部2,000円)を希望される方とあわせて、研究会事務局(農環研農薬影響軽減ユニット、TEL & FAX: 029-838-8307, E-mail: hideo@niaes.affrc.go.jp)までご連絡いただければ幸いです。(石井英夫)

(3) 第8回バイオコントロール研究会

第8回バイオコントロール研究会は、平成15年3月31日(月)に明治大学リパティホールで約170名の参加を得て開催された。今回は、開催事務局をお願いした千葉大両宮良幹氏らの企画に基づき、「土づくりの中の生物防除―土着・導入微生物活性化技術の開発を目指して―」のテーマで、日本土壤微生物学会の協賛を頂き、6題の講演発表と、開発微生物防除剤に関するパネル展示が行われた。講演は、宇都宮大の福井 糧氏が「持続的農業と生物防除」を、東京農工大の豊田剛己氏が「各種資材を用いた人工的土壤病害抑止土壤の創出に向けて」を、東京農大の後藤逸男氏が「土壤肥沃度と土壤病害の因果関係」を、沖縄県農試の田場 聡氏が「沖縄県で発生する土壤線虫病の生物学的および耕種的防除法―とくにサツマイモネコブセンチュウについて―」を、片倉チッカリン(株)の野口勝憲氏が「有機質肥料と微生物資材による土づくり」を、また基調講演として農環研の土屋健一氏が「生物防除と環境リスク」とそれぞれ題して発表された。運営進行を對馬誠也氏(農環研)が務めたほか、百町満朗(岐阜大)、宍戸雅宏(千葉大)、相野孝孝(兵庫中央農技セ)の各氏に座長をお願いした。微生物防除剤として、多木化学(株)「セル苗元

気」、関西総合環境センター「京いちもんめ」、クミアイ化学工業(株)「エコホープ」、セントラル硝子(株)「バイオキパー等」に関する説明が各開発担当者からなされた後、両宮氏(千葉大)の司会で活発な総合討論がもたれ、盛会裡に終了した。なお、講演要旨集(2,000円)をご希望の方は、對馬氏(農環研) seya@affrc.go.jp までご連絡頂きたい。(土屋健一)

【学会関連各委員からの報告】

1. 日本学術会議報告

第18期の日本学術会議は第133回総会(平成12年7月26日~28日)での発足以降、第134回(平成12年10月31日~11月2日)、第135回(平成13年4月25日~27日)、第136回(平成13年10月16日~18日)、第137回(平成14年4月17日~19日)、第138回(平成14年10月16日~18日)と総会を重ね、その間、今期活動計画である1) 人類的課題解決のための日本の計画の提案、2) 学術の状況並びに学術と社会との関係に依拠する新しい学術体系の提案、に関して議論を進め、1) については、平成14年12月に「日本の計画 Japan Perspective」としてとりまとめた報告書が公表された。また、総合科学技術会議における日本学術会議の在り方に関する審議と並行して、学術会議においても今後の方向に対する真剣な討議が重ねられたが、総合科学技術会議側のとりまとめが遅れたことに伴い、結局、この問題については引き続き第19期において具体的な検討を継続することとなった。一方、ノーベル賞100周年記念国際フォーラム「創造性とは何か」(平成14年3月16日~17日、東京; 3月20日、京都)をはじめ、数多くのシンポジウムを開催した。

第6部会は総会と連動あるいは独立してこれまでに14回開催されているが、この間、今期活動計画である1) 食・農・環境・生活等の問題解決の方法と方策、2) 21世紀の農学のあり方と研究教育体制の構築、に関して議論を進めるとともに、これに関連した数回の公開シンポジウムを開催するなどの活動を行ってきた。近々、これらの議論をとりまとめた「農業・農学の展望―循環型社会に向けて」と題する報告書を出版する予定である。

なお、日本学術会議の活動内容等についての詳細は、日本学術協力財団から毎月発行されている雑誌「学術の動向」をご覧ください。(日比忠明)

2. 日本学術会議微生物学研究連絡委員会報告

1月7日に19期第7回委員会が開催され、下記のような議題、報告があった。①学術会議の大規模な変革が議論さ

れているところであるが、本年の国会提出が困難であるため、第19期の本委員会委員の選出を例年どおりに準備するように要請があった。②前回、国際微生物学連合 (IUMS) の総会日本誘致の準備委員会が立ち上げることが決定されたが、12月24日に第一回委員会がおこなわれた。また、本年10月16～18日にクアラルンプールで開催されるアジア太平洋微生物学連合 (FAPMS) の演題提出の案内があった。③科学研究費補助金審査委員候補者の推薦について、対応研連の見直しについての意見具申があった。④カルチャーコレクションの充実について、第10回国際微生物株保存会議 (2004年10月10～15日) の準備状況、及び、OECD による BRC (Bio-resource center) 設定基準づくりの進捗状況が報告された。⑤当研連主催シンポジウム「ゲノム・環境・共生から微生物を見る」(当日午後開催) の準備状況について、報告があった。その他、植物病原性の不明確な菌を持ち込む場合の問題点が指摘され、当委員会では調査し、協議することとした。(露無慎二)

3. 第18期第6, 7, 8回日本学術会議植物防疫研究連絡委員会議事報告

平成14年9月13日(金)、11月15日(金)および平成15年3月14日(金)に開催された標記研連委員会の概要を以下に記す。

第6回の概要

- ・ヒアリングとして、臼井健二委員から除草剤に関する諸問題について話題を提供していただいた。
- ・平成14年11月15日(金) 13:00～17:00に日本学術会議講堂で開催される第7回植物保護・環境シンポジウム「ゲノム研究からみた植物保護技術の展望」について、その実施準備に関する具体的な打ち合わせを行った。

第7回の概要

- ・ヒアリングとして、佐々木満委員から農薬の開発に関する話題を提供していただいた。
- ・委員長から、総会・連合部会および第6部会の報告として、①総合科学技術会議専門調査会から提出された「日本学術会議のあり方(中間まとめ)(案)」について説明があった。最終案が12月下旬に出される予定で、内閣府のホームページでパブリックコメントを求めることになっており、意見があれば個人・学会等で提言してほしい旨の依頼があった。上記の事情から、来期19期からの学術会議の体制が未確定であるため、19期会員選出の諸手続は当面延期することとなった。②平成17年度(2005)共同主催国際会議の募集、③平成15年度代表派遣会議及び同派遣候補者の募集について説明があった。

- ・第7回植物保護・環境シンポジウム「ゲノム研究から見た植物保護技術の展望」について、寺岡委員から準備状況・運営について説明があり、同日午後に学術会議講堂でシンポジウムを開催した。

第8回の概要

- ・ヒアリングとして、宮田 正委員より国際化時代の農業問題について話題提供をしていただいた。
- ・委員長から、学術会議総会・連合部会および同第6部会の報告として、①総合科学技術会議がとりまとめた「日本学術会議のあり方について」の説明があり、来期19期は日程が遅れたが、従来通りに会員選出を行うこと、20期以降は研連の存続も含めて不透明であることから、第20期からの会員の推薦および研連のあり方について、「第20期以降、学術会議会員の資格や推薦方法、研連組織の改廃等について大幅な変更が予定されているため、第20期からの会員の推薦および植物防疫研連のあり方については、事態の推移を見ながら、研連内で改めて議論するものとする」ことを申し合わせた。②平成18年度(2006)共同主催国際会議の募集について説明があった。(寺岡 徹)

4. 日本農学会報告

平成15年度農学会大会

日 時：平成15年4月5日

場 所：東京大学山上会館

本年度の日本農学賞および第40回読売農学賞の受賞者は次の7氏である。

1) 農業構造と農政改革の体系的研究

日本農業経済学会：東京大学名誉教授
今村奈良臣

2) 顕著な生物活性を有する天然有機化合物の合成研究

日本農芸化学会：東京大学大学院農学生命科学研究科教授
北原 武

3) 動物のプリオン病に関する研究

日本獣医学会：(独) 農業技術研究機構動物衛生研究所
プリオン病研究センター長
品川森一

4) カキの起源と果実形質の多様性に関する研究

園芸学会：京都大学名誉教授
杉浦 明

5) 土の物質移動科学に関する知識体系の確立

農業土木学会：東京大学名誉教授
中野政詩

6) 防風施設による気象改良・砂漠化防止および気象資源の有効利用に関する農業気象学的研究

日本農業気象学会：九州大学大学院農学研究院教授

真木太一

7) 昆虫の光周性と季節適応に関する一連の研究

日本応用動物昆虫学会：弘前大学名誉教授

正木進三

また、同日午後「21世紀における循環型生物生産への提言 Part2」というテーマでシンポジウムが開催され、その中で当学会推薦の藤井義晴氏（農業環境技術研究所）が講演した。（塩見敏樹）

【今後の学会活動予定】

1. 平成15年度部会開催予定

(1) 北海道部会：平成15年10月23～24日

北海道大学（札幌市）

(2) 東北部会：平成15年9月24～25日

仙台市福祉プラザ（仙台市）

(3) 関東部会：平成15年9月19～20日

千葉大学（松戸市）

(4) 関西部会：平成15年10月18～19日

近畿大学（奈良市）

(5) 九州部会：平成15年9月18～19日

宮崎県立図書館研修ホール（宮崎市）

2. 談話会、研究会開催予定

(1) 第39回植物感染生理談話会

日時：平成15年8月21～23日

場所：犬山館（犬山市）

(2) 第22回植物細菌病談話会

日時：平成15年11月20～21日

場所：ウエルシティ宮崎（宮崎市）

【今後の関連学会情報】

1. 日本菌学会第47回大会

日時：平成15年5月31日～6月1日

場所：北海道大学学術交流会館（札幌市）

問い合わせ先：北海道大学農学部 森林科学科内

日本菌学会第47回大会事務局

— <http://www.soc.nii.ac.jp/msj7/html/taikai47.html>

2. 日本土壌微生物学会2003年度大会

日時：平成15年7月11日～13日

会場：アクロス福岡（福岡市）

問い合わせ先：九州大学大学院農学研究院

土壌微生物学研究室 金沢晋二郎

— <http://www.2003.ac.affrc.go.jp/>

【海外研究集会情報】（2003年5月～11月）

1. 3rd Pan-Pacific Conference on Pesticide Science:

Hawaii, USA, June 1-4, 2003

— <http://www.tilab.co.jp/3rd-ppcps/>

2. The 15th International Plant Protection Congress (IPPC): Beijing, China, July 6-11, 2003

— <http://www.ipmchina.cn.net/ippc>

第15回国際植物保護会議参加の方々へ

中国入国にはビザが必要で、ご自分で下記のサービスを受けて入手してください。なお、SARSのために会期変更の可能性が有ります

（国際植物保護科学会理事 山本 出）

問い合わせ先：中国科学院国際学术交流センター

日本連絡事務所株式会社トラベルパートナーズ

〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町25-6 KCMビル2F

Tel: 03-5645-3700 Fax: 03-5645-3775

e-mail: chinadesk8@aol.com

担当 戸塚雄二・加藤理奈（旅行サービスも実施）

3. APS Annual Meeting: Charlotte, NC, USA, August

9-13, 2003

— <http://www.apsnet.org/>

4. The BCPC (British Crop Protection Council) Conference 2003 -Weeds-: Brighton, UK, November

17-20, 2003

— <http://www.bcpc.org/otherevents/index.htm>

【書評】

「人に役立つ微生物のはなし」くらしの中の化学と生物 8, 日本農芸化学会編

責任編集：羽柴輝良 227頁 1,800円＋税

微生物は一ミリの百分の一から千分の一という微細な生物であり、そのごく一部は動植物に寄生して病気を引き起こす。しかし、微生物の大部分は人間にとってまったく無害かきわめて有益である。生命が誕生してから約39億年、生物は幾度かの絶滅と再生の歴史を繰り返しながら、より高度で多様性に富んだ現存の生物種へと発展してきた。生

物進化の過程において、それぞれの生物とくに微生物は対立という形で、あるいは共生という形で動植物に深い関わりをもってきた。一方、人間はこれまでに無限の能力を秘めたこの微生物を巧みに利用し、さらに将来は環境浄化や代替エネルギー生産といった分野にまで利用しようとしている。本書はそれらを平易な言葉できわめて判りやすく示してくれる。この書は日本農芸化学会の創立70周年を記念して企画・刊行されたシリーズのひとつであるが、日頃これらの情報に接する機会の少ない方々にも充分に楽しめる良書である。一読をお勧めしたい。(松山宣明)

【学会ニュース編集委員会コーナー】

編集委員会報告

3月30日、12時から約一時間、学会ニュース編集委員会が開催された。新旧幹事の紹介が行われた後、一年間の編集経過報告がなされた。今年から和文誌の刊行が年4回となることへの対応や学会ホームページと学会ニュース担当者間での情報の共有化などについて話し合われた。

(松山宣明)

情報提供および投稿のお願い

本ニュースは身近な関連情報を気軽に交換することを主旨として発行されております。会員の各種出版物の御紹介、書評、会員の動静、学会運営に対する御意見、会員の関連学会における受賞、プロジェクトの紹介などの情報をお寄せ頂きたくお願いいたします。

投稿宛先：〒170-8484 豊島区駒込1-43-11

日本植物防疫協会ビル内

学会ニュース編集委員会

FAX: 03-3943-6086

または下記学会ニュース編集委員へ

松山宣明, 塩見敏樹, 竹内妙子, 阿久津克己,
吉田重信各委員宛

編集後記

学会ニュース第22号をお届けします。今回は平成15年度日本植物病理学会大会および引き続いて行なわれた各種シンポジウムに関するニュースを中心に掲載を行いました。なお、新たに名誉会員、永年会員になられた方々の記事は原稿締め切り日の関係で次号に掲載させて頂く予定です。(松山宣明)

会員のご逝去

永年会員の高橋喜夫氏は平成15年3月25日に逝去されました。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。